



矢野家本宅前の通り

## 町並みについて

- ◆ 矢野家本宅をはじめ歴史を感じさせる建造物が点在し、手入れの行き届いた小さな井手や板塀、生垣などとともに、威厳のある景観を作り出しています。
- ◆ 集落内にある16世紀に建てられた板碑は、「大日本関西道肥後州六箇莊津森河原村」と刻まれ、旧河原村の中心地として栄えたことを今に伝えています。
- ◆ また、明治初期の大規模住宅の好例である矢野家本宅と、昭和初期の建築で書院を備えた本格的座敷を持つ矢野家新宅が隣接し、時代の流れを感じることができる町並みです。



## 町並みの中心(核)となる伝統的建造物

### 🏠 矢野家本宅

国登録有形文化財

- ◆ 矢野家は旧河原村を基盤にした武家の流れを引く名家で、江戸期には飢饉に際し百姓救済を行うなど、当時の在御家人とは別格の家柄に位置付けられ、明治期には近隣の地主を務めました。
- ◆ 主屋の玄関・座敷等は、武家屋敷と類似点がみられます。また、棧瓦葺、妻入の比較的大きな土蔵は、腰をなまこ壁、上部を漆喰壁に仕上げられており、地主としての繁栄を物語る貴重な建造物です。



矢野家本宅門(国登録有形文化財)

矢野家は、後背の山間部に築造された現役の通水施設「嘉永井手」の水利事業に関わるなど、長きにわたって同地区を経済的に支援してきました。素朴で力強い旧武家屋敷の構えの矢野家本宅は、同家が発展の礎を築いた周辺の田園風景と調和し、落ち着いた佇まいをみせています。